

平成 27 年度 社会教育主事講習[A] 講義レジュメ

日 時 平成 27 年 8 月 4 日 (火) 11:15~12:45 (90分)

会 場 社会教育実践研究センター 2F 実習室

講 師 みるさと再生塾塾長 小山 忠弘

テーマ 生涯学習の振興とまちづくり

1、9:35~9:45 ●江戸川区の事例視聴のポイント

1) 行政施策 ①理念 ②ビジョン ③戦略 ④戦術 ⑤計画 ⑥実践

2) 施設機能 ①あつまる ②まなぶ ③つなぐ ④ひろがる

2、講義テーマの受け止め方

(1) 生涯学習の振興によって、どういうまちづくりをするのか

①住民の生涯学習活動が盛んなまちにするのか＝生涯学習のためのまちづくりなのか

②住民の生涯学習によって住みよいまちをつくるのか＝学習成果の還元する自立した市民を育てるまちづくりなのか

(2) 社会教育主事が常に念頭に置くべきこと：市町村の規模に関係なく、教育基本法第 13 条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）の施策化・具現化に努めること。

●行政の各部局が連携しながら、まち全体で生涯学習の成果を活かす体制の整備



「生涯学習（知識・技術・資格取得）に熱心な市民」から「生涯学習によって身に付けた成果を住みよい地域育て・人育てのために、自ら活動する市民」への意識の転換が必要 → ボランティア活動、サポーター活動、気軽なサロンづくり活動＝ 地域で自立した市民育て

*江戸川区長期計画基本目標のⅠ～Ⅵの項目 参照

2、生涯学習の成果を活かしたまちづくりの実践

(1) 「まちづくり」から「まち育て」「ひと育て」へ

●まちづくり＝どちらかといえば行政主導で、目的・計画的・効率的にハード面を整備する傾向が見られる。一部の住民が委員として参加しているだけ。

●まち育て＝住民の願い・夢・愚痴・つぶやきを、みんなのチエで住みよい形に変えていくプロセス。地域の力は、住民がヒト・モノ・コト・カネの渦に参加し、物語を紡ごうとする意志から始まる。

「専門家や行政職員は専門用語・制度用語に傾きがちです。ともすると、「モノ・カネ・セイド」から、とりわけ「オサイフ」から入っていく「こころの習慣」から離れられません。

「オサイフ」の大きさや「セイド」の制約を問題にする前に、「何をやりたいのか」「何を目指すのか」「かくありたい」というコンセプトづくりに赴き、「かね」よりも「かち」づくりを重視する「心の習慣」を育むべきではないでしょうか。」（延藤安弘著『まち再生の術語集』岩波新書 2013）

*江戸川総合人生大学の設立趣旨 参照